

成田の舞台裏

普段何げなく利用している施設やサービス。その裏側では、どのようなことが行われているのでしょうか。ここでは、普段は見るできない成田のさまざまな舞台裏を紹介します。

第18回 成田富里いずみ清掃工場 ～市内から出される可燃ごみの行方は～

成田市・富里市合わせて約9万世帯と両市内の事業所から出される可燃ごみを処理する成田富里いずみ清掃工場。今回は、ごみとして出された可燃物がどのように処理されるのかを紹介します。

市内に約4,000カ所ある、ごみの集積所。家庭から出される可燃ごみは、週に2回、収集されています。収集運搬車が担当の地区を回り、収集された可燃ごみは清掃工場に向かいます。清掃工場に到着した収集運搬車は、可燃ごみをプラットフォームから、処理前のごみをためるピットに落とします。効率的に処理するために、クレーンを使ってほぐし、片寄りをなくした後に溶融炉に投入されます。ごみを処理する設備というと焼却炉をイメージする人が多いかもしれませんが、1,650度を超える高温で処理できるこの溶融炉では、焼却灰ではなく溶融スラグというガラス状の物質に再生することができます。溶融炉から出された溶融スラグは、細かく砕かれて粒の大きさを均一にされた後、アスファルトなどの素材として利用されます。溶融炉から発生する一酸化炭素や窒素酸化物などのガスは、専用のろ過装置などを通して、清掃工場の煙突からはきれいな状態で排出されています。この排出される煙に含まれる物質の数値は、毎日1時間ごとに計測していて、市ホームページなどで公表しています。

私たちの生活から日々出される可燃ごみ。清掃工場に搬入された可燃ごみは、環境に配慮された形で処理をされ、道路の舗装資材や建設資材の一部として再生されていました。

適正な分別にご協力を

成田富里環境マネジメント(株) あさの はじめ 浅野 肇さん

缶や金属製品などの可燃ごみ以外の物を処理すると、溶融炉に負担がかかるほか、溶け残った物によってコンベヤーなどの設備の損傷の原因となります。清掃工場は24時間365日稼働していますが、損傷が発生すると処理が止まってしまいます。ごみを安定して処理するためにも、皆さんには適正な分別にご協力をお願いします。



- ① 収集運搬車からピットに落とされる
- ② クレーンを操作してごみをほぐす
- ③ 溶融スラグがコンベヤーで運ばれる
- ④ 砕かれて均一な大きさになった溶融スラグ

舞台裏の様子をYouTubeでも

右のQRコードから成田市公式YouTubeチャンネルにアクセスして、スマートフォンやタブレットなどから、取材の際に撮影した動画やスライドショーを見ることができます。



成田市公式
YouTubeチャンネル

編集後記

先日、某釣り雑誌主催のブラックバス釣り大会で入賞することができました。魚が釣れたのは、日陰や水の流れがある所。この夏は猛暑だったので魚も人間と同じように涼しい所が過ごしやすいようです。最近は日没が早くなり秋を感じられるようになってきました。秋といえば食欲の秋。新米や梨、栗にサツマイモなど旬の味覚が楽しめますね。産地ならではの「ゆで落花生」は食べ始めたら止まりません。魚にも食欲の秋があるはず。私の釣り針にどんどん食いついてほしいと思います。

令和5年9月15日号 No.1491

成田市のホームページ

<https://www.city.narita.chiba.jp>

*QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です



*本紙は9月7日時点の情報を掲載しています。最新情報は各ページの問い合わせ先や市ホームページで確認してください。

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。